

VI 社会の変化と将来の希望

1 社会の変化についての意識

「保健・医療・福祉のサービス提供システムの変革を含めた急激な社会の変化を看護職であるあなたはどのように思われますか」という問いに、「どちらかというともよい傾向、よい時期」「どちらかというとも悪い傾向、悪い時期」「何も変わらない、影響はない」「よくわからない」という4つの回答肢を設けた。その結果を、業務別・職位別に示したものが〈図22〉である。「どちらかというとも

よい傾向、よい時期」と答えている比率が最も高いのは、業務別にみると「看護教員」64.8%であり、職位別にみると「管理職」73.5%である。

2 変革期に求められる看護職の知識や技術

「保健・医療・福祉のサービス提供システムの変革期にあたって看護職に求められる知識や技術、能力が変化してきていると思いますか」という問いに、「変化してきている」「変わらない」という

図22 社会の変化についての意識（業務別・職位別）

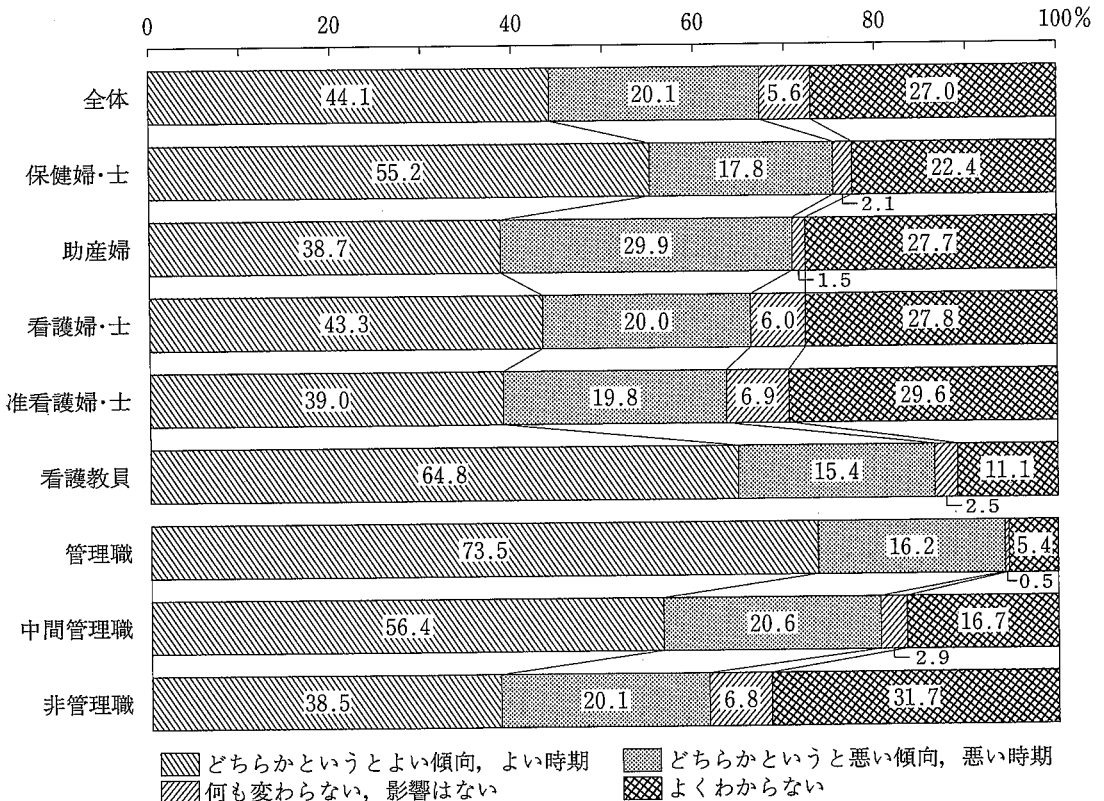
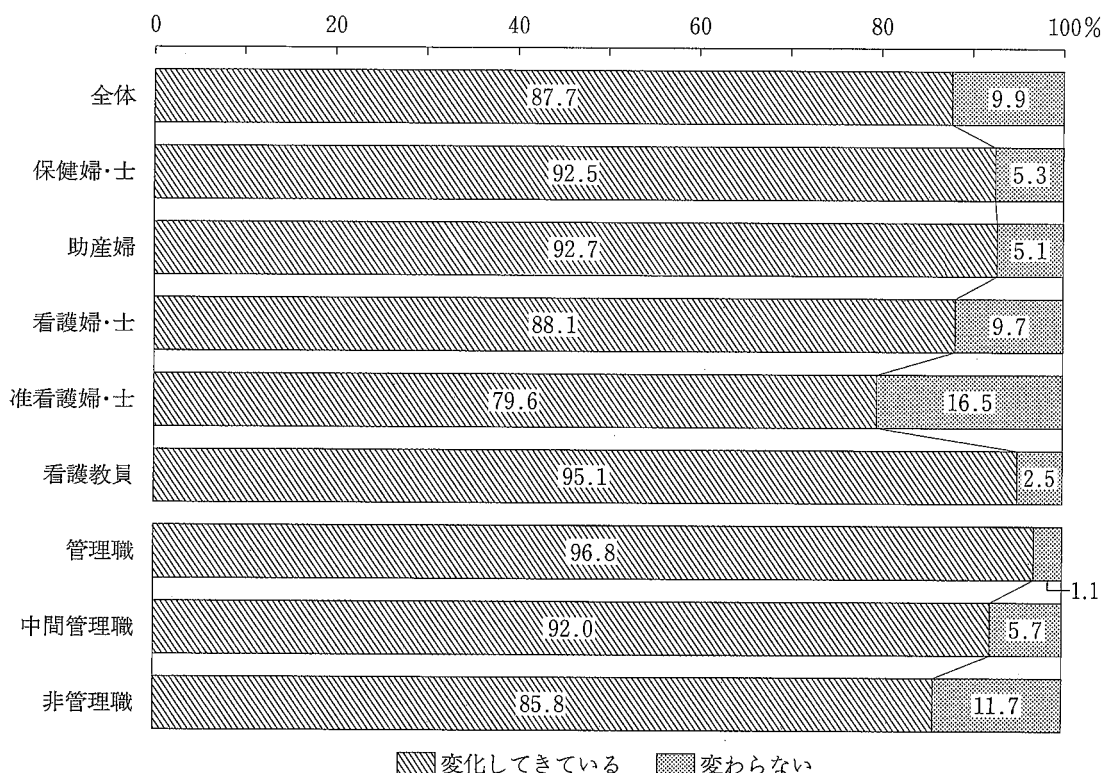


図23 看護職に求められる知識や技術、能力が変化してきていると思うか（業務別・職位別）



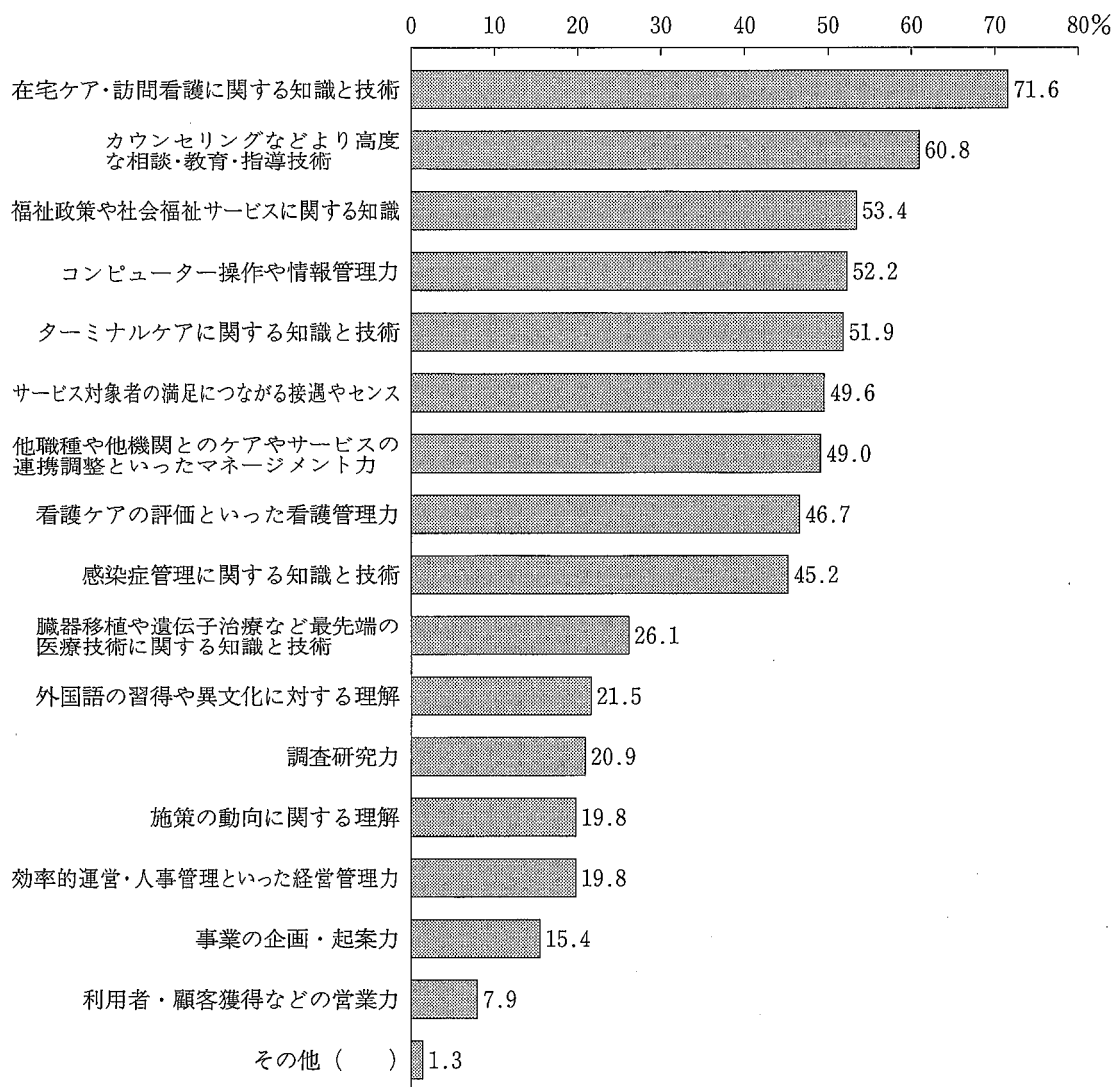
2つの回答肢を設けた。その結果を業務別・職位別に示したのが〈図23〉である。全体で「変化してきている」は87.7%、「変わらない」は9.9%であるが、「変化してきている」と答えている比率が最も高いのは、業務別では「看護教員」で95.1%、職位別にみると、「管理職」が96.8%である。

次に、「看護職に求められる知識や技術、能力が変化してきていると思う」と回答している者に、「具体的にどのような知識や技術、能力があなたに求められているとお考えですか」と複数回答で尋ねた結果を示したものが〈図24〉である。求められていると答えている比率が高い上位3位は、「在宅ケア・訪問看護に関する知識と技術」71.6%、「カウンセリングなど、より高度な相談・教育・指導技術」60.8%、「福祉政策や社会福祉サービスに関する知識」53.4%である。年齢別・業務

表15 取得したい学位や資格〈複数回答〉

	(%)
学士号 看護系	8.3
学士号 非看護系	11.8
修士号 看護系	4.7
修士号 非看護系	4.1
博士号 看護系	2.2
博士号 非看護系	1.5
(正)看護婦免許	8.7
助産婦免許	4.1
保健婦免許	8.0
認定看護師 救急	11.4
認定看護師 創傷・オストミー・失禁 (WOC)	6.6
認定看護師 重症集中ケア	6.3
専門看護師 精神 (リエゾンを含む)	8.2
専門看護師 地域	10.2
専門看護師 がん	7.9
認定看護管理師	5.7
救急救命士	12.7
臓器移植コーディネーター	1.2
社会福祉士	5.6
介護福祉士	5.0
ケアマネジャー (介護支援専門員)	22.3
その他 ()	9.6

図24 変革期に求められる看護職の知識や技術〈複数回答〉



別・職位別・勤務場所別の属性比較については〈統計表第179～182表〉を参照されたい。

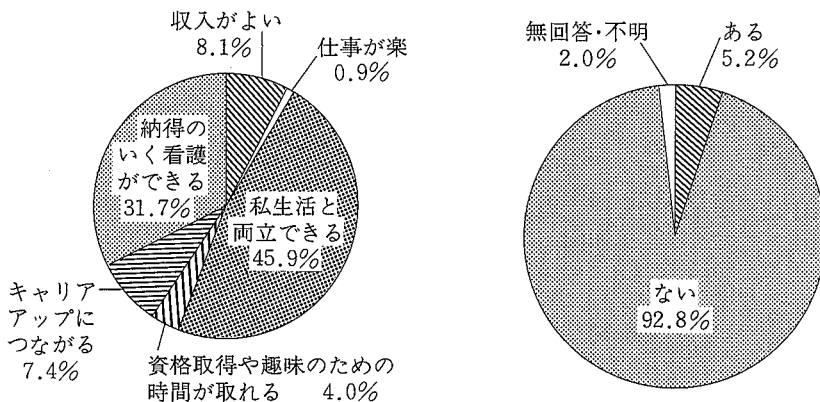
3 新たな学位や資格の取得

「あなたは、新たに学位や資格を取得しようとお考えですか」という問いに「はい」と答えた比率は全体で34.8%、「いいえ」と答えた比率は62.7%で、年齢別にみると年代が若い層ほど資格取得意志が高い〈統計表第183表〉。業務別にみると、

「看護教員」が54.9%と高い比率を占めている〈統計表第184表〉。

次に、学位や資格を取得したいと答えている者の中で、具体的にどのような学位や資格を取得したいかを複数回答で尋ねた結果を示したものが〈表15〉である。その中で最も比率が高いのが「ケアマネジャー（介護支援専門員）」で22.3%、ついで「救急救命士」12.7%である。「ケアマネジャー（介護支援専門員）」の資格を取得したいと回答し

図25 職場や働き方を選ぶ上で最も重視していること



た者の比率を職位別にみると、「管理職」の比率が65.7%と高い（統計表第189表）。また、勤務場所別にみて資格を取得したいと回答した者の比率が高いのは、「訪問看護ステーション・在宅介護支援センター」勤務者73.3%、「老人保健施設」勤務者72.7%、「市区町村（保健センターを含む）」勤務者71.6%などである（統計表第190表）。

4 職場や働き方を選ぶ上で最も重視していること

「あなたが職場や働き方を選ぶ上で最も重視しているのは、次のうちどれですか」という問いに、最も高い比率を示したのが「私生活と両立できる」45.9%、ついで「納得のいく看護ができる」31.7%、「収入がよい」8.1%、「資格取得や趣味のた

めの時間が取れる」4.0%、「仕事が好き」0.9%であった（図25）。

年齢別にみると、「私生活と両立できる」と回答している比率が高いのは30代である。業務別では「保健婦」61.9%、職位別では「非管理職」48.4%、勤務場所別では、「市区町村（保健センターを含む）」勤務者66.9%の比率が高い（統計表第191～194表）。

5 今後どのような形で仕事を継続していきたいか

「あなたは今後どのような形で仕事を継続していきたいとお考えですか」と尋ねた結果、全体では「就業形態にかかわらず、何らかの形で働きつづける」が71.0%で最も高い比率を占めていた。

図26 20代（未婚者）の就業継続意向

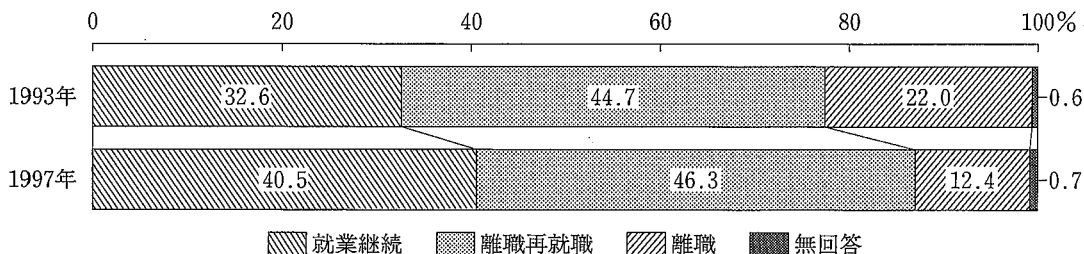


図27 今後看護職として仕事を継続していきたいか

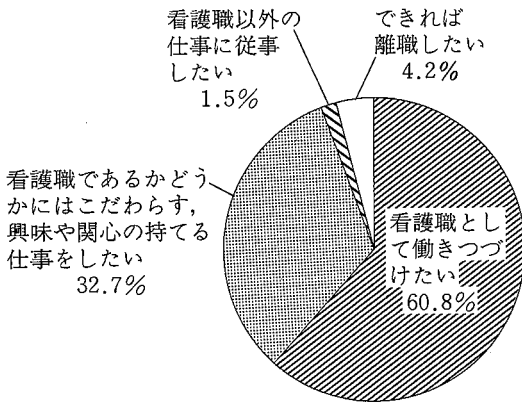
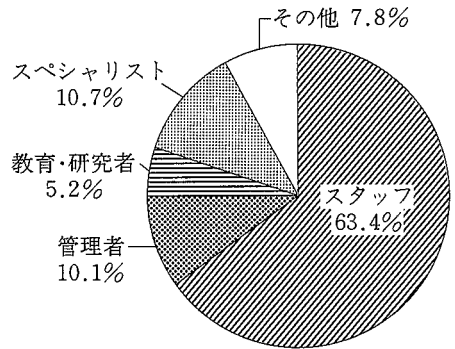


図28 希望する職位（就業継続したいと回答している者のみ）



ついで、「結婚、出産、介護といった人生の転機に応じて離職はするが、再就職を試みる」19.6%、「結婚、出産、介護といった私生活を優先させ、それを機会に離職する」7.1%の順である。

〈図26〉は20代未婚者の就業継続意向を前回調査(93年)と比較したものである。「結婚、出産、介護といった人生の転機に応じて離職はするが、再就職を試みる」という「離職再就職型」の比率が

最も高いが、93年調査と比較して、「就業継続型」が7.9ポイント増加し、「離職」は9.6ポイント減少した。

6 看護職として仕事を継続していきたいか

「あなたは今後看護職として仕事を継続していきたいとお考えですか」と尋ねた結果を示したも

表16 希望する職場〈複数回答〉

	(%)			
	保健婦・士	助産婦	看護婦・士	准看護婦・士
回答者数(人)	289	144	3289	476
病院	8.7	78.5	72.5	74.8
診療所	2.4	15.3	19.2	22.9
訪問看護ステーション・在宅介護支援センター	15.9	14.6	34.4	25.8
健(検)診センター等の健(検)診専門施設	8.7	3.5	11.6	11.8
保健所	22.1	9.7	4.3	2.1
市区町村役場(保健センター・福祉環境部門、社協を含む)	49.5	16.7	7.4	6.5
省庁・都道府県庁(福祉環境部門、社協を含む)	4.8	2.1	2.3	1.7
学校(大学を含む)の保健室	11.1	7.6	6.1	2.7
企業等の健康管理部門	17.3	7.6	10.8	4.2
看護系教育研究機関	8.3	6.3	6.5	1.3
老人保健福祉施設・老人ホーム	7.3	1.4	14.9	25.0
老人以外の福祉施設	3.8	1.4	5.4	6.9
一般企業	7.6	3.5	5.7	3.2
国際援助機関やNGO・ボランティア団体	9.3	9.0	7.7	4.4
自営業	2.4	8.3	1.9	0.6

のが〈図27〉である。その結果、「看護職として働きつづけたい」が60.8%と最も多く、ついで「看護職であるかどうかにはこだわらず、興味や関心の持てる仕事をしたい」32.7%、「看護職以外の仕事に従事したい」1.5%、「できれば離職したい」4.2%の順であった。

「看護職として働きつづけたい」「看護職であるかどうかにはこだわらず、興味や関心の持てる仕事をしたい」、「看護職以外の仕事に従事したい」という看護職として仕事を継続する意思のある者

について、具体的にどのような職位を希望しているかを尋ねた結果を示したものが〈図28〉である。

また看護職として仕事を継続する意思のある者について、希望する職場を業務別に示したのが〈表16〉である。「保健婦・士」を除いて、最も高い比率を占めているのが「病院」である。看護職として仕事を継続する意思のある者は、病院でスタッフとして働きたいという希望者が多いが、「訪問看護ステーション」がそれにつぐ比率であった。